

# 打ち克つ 58

uhbニュースキャスター時代に母親のがんがきっかけで2010年からがん医療取材・啓発活動をスタート。北海道新聞とともに「がんを防ごう」キャンペーンを展開し、予防や早期発見、最新治療、がんと生きるなどをテーマに医療特集を自ら制作。その後、現代人を襲う様々な疾患について、患者に寄り添った取材活動を続けている。また、女性のライフスタイルや健康のサポートにも取り組んでいる。  
★uhbで毎月第4日曜日 早朝6時15分～6時30分「松本裕子の病を知る」放送中。  
YouTubeでも配信している。



「突然、言葉が出ない」「片腕が動かない」「足元がふらつく」それは、もしかすると、脳からの警告、かもしれません。UHB「松本裕子の病を知る」は、2025年12月で放送100回目を迎えました。医療現場から正しい知識を伝え、道民の不安や疑問に寄り添いたい―そ

んな思いで続けてきた取材の節目に選んだテーマは、シリーズ『脳からの警告』第1回「脳梗塞」でした。  
お話を伺ったのは、札幌柏葉会病院院長で脳神経外科医として数多くの命を救ってきた中山若樹医師。発症のメカニズムから最新の治療法、そして私たちができる予防と早期対応の大切さを解説していただきました。

まずは「ラクナ梗塞」。脳の細い血管が詰まり、直径10mm以下の小さな脳梗塞が生じます。小さくても、場所によっては日常生活に支障をきたす場合があります。

2つ目は「アテローム血栓性脳梗塞」。動脈硬化によって太い血管内の壁が厚くなり、詰まるタイプで、ラクナ梗塞より広範囲の脳梗塞を招きます。進行はゆっくりでも放置すると悪化するため、薬物療法に加え、外科手術が検討されることもあります。

そして3つ目が「心原性脳塞栓症」。心臓の中にできた血栓が突然、脳の血管に飛び、引つかかって詰まらせる重篤なタイプです。詰まる血栓が大きい場合には、重度のまひや言語障害などが後遺症になるだけでなく、命に関わるリスクが最も高い病態です。

皆さんは、脳梗塞の代表的な初期症状「FAST」をご存じでしょうか？

## ■脳からの警告！忍び寄る脳梗塞から命を守るために…



▲「脳梗塞は発症から治療までの時間が命を左右します」と警告する中山医師

のための服薬や予防目的の治療、生活習慣の改善が極めて重要になります。

「私たち医療者は、患者さんが搬送されてから治療までの時間をどれだけ短縮できるか努力しています。でも病院に来るまでの時間は、患者さんとご家族に委ねられています」

脳梗塞は、ある日突然、誰にでも起こりうる病です。そして、本人よりも周囲の人が先に異変に気づくケースが多く、「様子がおかしい」と感じたなら、ためらわずに119番通報を。違和感を見逃さないことで、助かる命が確実に増えるのです。

顔の歪み（Face）、腕の脱力（Arm）、言葉のもつれ（Speech）を感じたら、すぐに（Time）行動を…最近では、ふらつき（Balance）や視覚の異常（Eye）も加えた「BEFAST」という言葉で注意喚起されています。

年間2500件ほどの救急搬送がある札幌柏葉会病院の救急外来を取材すると、CTやMRI検査から治療までがスムーズな動線で行われていました。

脳梗塞の超急性期には、t-PAという薬で血栓を溶かすが、タイムリミットは発症から4時間半以内。さらに、薬が使えない場合や効果がないケースでは、カテーテルを用いて血栓を取り除く「脳血栓回収術」が行われます。発症から6時間以内（24時間以内であれば適応さ

す度には後遺症が積み重なってしまいます。そのため、再発予防

が、タイムリミットは発症から4時間半以内。さらに、薬が使えない場合や効果がないケースでは、カテーテルを用いて血栓を取り除く「脳血栓回収術」が行われます。発症から6時間以内（24時間以内であれば適応さ

この番組が、「知ること」で自分や大切な誰かの明日を守るバイブルであり続けられるように、私もまた歩みを進めていきます。

医療キャスター

松本裕子の

# 病に

■札幌柏葉会病院

1971年4月に柏葉脳神経外科医院として開院し、2024年12月1日から社会医療法人柏葉会・札幌柏葉会病院に改名して現在の札幌市豊平区平岸1条12丁目1・25に移転した。診療科目は脳神経外科、脳神経内科、循環器内科、リハビリテーション科などがある。病床数167床。緊急性の高い脳血管内治療や高度な脳血管外科手術が受けられる。手術の精度を上げるための情報統合型の「ハイブリッド手術室」を完備する。  
電話（代表）011・876・9100  
(K)